

## DMM理論（アタッチメントと適応の動的-成熟モデル）とは

「アタッチメントと適応の動的-成熟モデル（Dynamic-Maturational Model of Attachment and Adaptation: DMM）」を発案したのは Patricia Crittenden博士です。アタッチメント研究の基礎であるストレンジ・シチュエーション法を開発したMary Ainsworthの下でアタッチメント研究を中心に行い、近年では、最新の認知科学や様々な臨床心理学理論などを取り入れて統合的人格発達理論：DMM理論を提唱しています。日本では、Crittenden博士からDMM-AAIの指導を受けた北海道教育大学保健管理センターの三上謙一准教授が、DMMを用いた臨床実践をしながら、DMM理論を日本に紹介しています。その一環として、Patricia Crittenden 博士の著書「成人アタッチメントのアセスメント：動的-成熟モデルによる談話分析」（監訳 三上謙一）が岩崎学術出版社より2018年8月に出版されました。



日々臨床実践に取り組んでいる心理・看護・保育・医学の専門職に有用です。詳しくはFamily Relations Instituteホームページ（<http://www.patcrittenden.com/>）をご覧ください。